

## 「漫画 大霹靂」とは…

「龍虎門」でおなじみ黄玉郎が企画、玉皇朝出版会社が2000-01年出版の霹靂布袋戯コミック作品です。

台湾の漫画家・鄭問が作画を担当し、月刊(第4巻から隔週刊)、

B5判オールカラー薄装本で全20巻が発行されました。

台湾の霹靂多媒體有限公司(当時は「大霹靂集團」)の公式ライセンスを得ています。

### 《布袋戯とは?》

台湾の人形劇エンターテインメントです。精巧な木偶(人形)を、操演師(あやつり師)が手でいきいきと動かし、刀剣や武術のアクションまで演じます。セリフや語り、独特の口上も入ります。

街角や、お祭りの日の寺廟の片すみに小さな舞台をこしらえて地元の人々に見せる土着演芸として続いてきましたが、1980年代なかばにテレビ放送コンテンツ「霹靂布袋戯」が登場。特技エフェクトびっかびか使いまくりのド派手な演出で台湾人のハートをつかみ、多数のシリーズが制作されます。専門テレビチャンネルができるほど定着し、熱狂的なファンも多数。

「霹靂」「金光」の2大メジャー制作元があるほか、2016年にはニトロプラス&虚淵玄&霹靂によるオリジナル企画「東離剣遊紀 Thunderbolt Fantasy」も開始、日本での知名度を一気に上げることとなりました。

### 《鄭問とは?》

台湾のカリスマ漫画家・イラストレーター。1980年代後半にデビュー、「刺客列傳」「阿鼻劍」などの漫画作品が地元で大ヒット。毛筆を大胆に使用、一見ワイルドで伝統的水墨画のような絵柄にみせながら、おそろしく卓越した画力で人間の喜怒哀楽の表情、身体の動きをリアルに描き出して読者の度肝を抜きます。そこに目をつけたのが講談社「モーニング」編集陣。90年代に「東周英雄伝」「深く美しきアジア」「萬歳」などを次々に掲載、日本でも幅広い知名度を得ます。

2000年代以降はゲーム「鄭問之三国誌」などイラストワークが中心となり、2017年に惜しくも58歳の若さで逝去。翌年には国立の博物館「故宮博物院」で大規模回顧展が開催され蔡英文総統まで駆けつけるなど、今も「台湾の至宝」いや「アジアの至宝」として崇敬されています。

### 《黄玉郎 & 玉皇朝出版会社とは?》

香港漫画界のゴッドファーザー(←いろんな意味でネ♥)黄玉郎。1971年にアクション漫画「龍虎門」を執筆開始し大ヒット、現在まで半世紀近く連載継続中。2回実写映画化され、2006年公開作は「かちこみ!ドラゴン・タイガー・ゲート」の邦題、ドニー・イェン出演で日本でも知られることに。

ほかにも「酔拳」「如来神掌」など多数ヒットさせるとともに実業家としても活躍。70年代後半に創設した自身の漫画出版社「玉郎機構」はアメコミ式分業制をアレンジして大胆に取り入れ、会社としても大発展させ株式上場させるまでに。ところが1987年ブラックマンデーで会社資金に手をつけ詐欺罪で有罪確定・服役。出獄後に再設立した出版社が「玉皇朝出版公司」。みずからプロデュースの「神兵玄奇」「天子傳奇」、武俠作家・金庸コミカライズ作品を次々ヒットさせ、漫画王として返り咲きます。失敗しても再起・成功する姿は漫画ファンを超えて立志伝中の人物とされ、地元ではアイドル的存在となっています。